



DBKだより

第20号
2018年3月31日
ドン・ボスコ基金



モンゴル・オルビトにあるサレジオン・シスターズのオラトリオで遊ぶ子どもたち

主が皆さんを祝福し、
守ってくださいますように

旧約聖書 民数記6章24節

トピック

モンゴル「忍耐、忍耐が必要です」／アルゼンチン ドン・ボスコプロジェクト
南スーダン 現状と自立支援への模索／ボリビア サンホセ教会「子ども食堂」
東ティモール ロスパロス児童養護施設／大分県津久見市 カトリック津久見幼稚園

恩人の皆様へ

グローバル化された世界とDBK

インターネットの発展により、この数年で、どこでも一瞬で連絡を取ることができる時代になりました。小さなスマホを持って歩けば、地球上のどこからでも電話やメールを受け取ることができます。いつの間にか世界が小さな村のようになったかのようです。

ある出来事がニュースになれば、どこにいてもそれを知ることができます。この素晴らしい道具を世界の平和のため、子どもたちの教育のため、文化交流のために役立たせ、私たちより苦しんでいる人たち、飢えている人たちに、たとえ小さくとも助け合いができるような世界を築いていきたいものです。

DBK[ドン・ボスコ基金] が2008年7月1日に設立されてから10年、皆様のお陰で歩み続けてくること

ができました。心より感謝申し上げます。国内だけでも数えきれないほどの支援の依頼がたくさんグループ、会社、教会などに送られています。そうした中で、私たちの奉仕は社会で必要とされている大きな流れの中の一滴にすぎないかもしれません。しかしその一滴は、皆様の寄付を通して多くの人びとを結び絆となり、生きる希望の糧になっています。

海外と国内の支援先からDBKに届いた手紙について、「DBKだより」を通して皆様と分かち合いたいと思います。どうか引き続き、皆さんの寛大な心をもって、DBKを通して人類の発展のため、世界の平和のために私たちが果たす使命がまことの奉仕となるよう、ご支援とご協力、お祈りをお願い申し上げます。

2018年3月

DBK[ドン・ボスコ基金] 代表 山野内 倫昭^{みちあき}神父

モンゴル・オルビト 「忍耐、忍耐が必要です」



シスター小島とモンゴルの子どもたち

モンゴルの冬、平均気温はマイナス25度です。私は皆様のご支援に支えられて、この寒さの中でも毎日、健康で宣教活動に励んでおります。

2017年12月、私たちの修道院で行っている教育活動の正式な認可が下り、これを機に名前も「MARIA AUXILIUM CENTER」と変わりました。地域の必要に応えるため、図書館、オラトリオ、英語教室の3つの事業を少ないメンバーで協力して行っています。

モンゴルの小学校は午前と午後の2部の授業に分かれています。午前の授業の子どもたちは学校が終わると外は寒いので家の中で過ごし、午後の授業の子どもたちは授業が終わるともう外が真っ暗なので、そのまま家に帰ります。そのため、オラトリオに参加する子が少なくなっていたのですが、皆様のご支援の一部で新しいゲームを購入することができ、より多くの子どもたちが毎日喜んで通ってくるようになりました。毎日平均で20人近くの子どもたちが通ってきます。

以前、たくさんの物を盗まれたことがありましたので、もうこれ以上盗まれては困ると思い、今まで以上に注意深く目を配るようにしています。貧しさが心の豊かさを生みだすことがあります。ここ、オルビトではまだ遠い先のように思われます。先が見えず、実りがすぐに現れない活動というのはとても忍耐がいります。モンゴル教会の司教である、ヴェンセスラオ司教様もいつも「忍耐、忍耐が必要です」とおっしゃいます。自分を日々成長させ、モンゴル国の真の宣教女になるためにも「忍耐」を目標に毎日歩んでいきたいと思っています。皆様に神様の豊かな祝福を祈りつつ。

(サレジオン・シスターズ宣教女 シスター小島華子)

アルゼンチン・コルドバ ドン・ボスコプロジェクト



聖ヨハネ・ボスコ教会での職業訓練

日本のDBKの恩人の皆様、私たちの教会では最も貧しくて勉強できない子どもたちのために、主任司祭コルデラ・ホセ(Cordera José) 神父が数人の大人と青年たちを集め、子どもたちが成人に向かって成長すると同時に、職を身につけられるよう学べないかということから「料理・縫製・木工」のセンターを開設しました。

2017年度には8歳から18歳の青少年が集まりました。多くの子どもたちの家庭では暴力があり、不登校、性的虐待、健康問題などを抱えています。このドン・ボスコの家オラトリオは、職業のプロを育てる職業センターではありません。もっと素朴なものです。

学校に通い始めてもやめてしまう子どもたちを集め、将来、社会の中で犯罪者や盗人として生きることがないように、まだ素直さのある時に小さな職を身につけられるような教育をするならば、彼らも喜んで通うのではないかとということで始めました。

2016年と2017年には、最初の良い実りがありました。私たちが行っていることは小さなことで社会事業とは全然比較にはなりませんが、ドン・ボスコの心をもって実践している教育の場であり、彼らを受け入れる家となっています。どうぞ引き続き2018年度に向けて、このセンターを支えてください。子どもたちからの祈りと感謝の言葉をお伝えします。「日本の恩人の皆さん、ありがとうございます。アルゼンチンに来られましたら、ぜひ訪問してください。ドン・ボスコと共に。」

(ドン・ボスコプロジェクト担当者 ソフィアとアグステイナ)

南スーダン 現状と自立支援への模索



主食であるトウモロコシの粉の買い付け。この店の主人はイスラム教徒ですが、私たちの活動を理解して通常より安価で売ってくださいます。

南スーダンは独立して5年、すべてが不安定のまま、国内外への難民も増え続けている状況です。

昨年は雨季にほとんど雨が降らず、食料確保が本当に大変でした。今年は雨季が始まる時、南スーダン司教団からすべての教会に、「雨乞いのミサを3日間行うように」との要請がありました。今年も雨季に入ってもなかなか雨は降りませんでした。私たちの教会でミサを始めた第1日に突然ゴーという音がしたかと思うと、滝のような雨が降り始めました。雨はミサの間中降り続き、外は道が川のようになっていました。次の日、その次の日も同じように、ミサが始まったとたんに突然強い風が吹き、雨が降り始めました。これは神様が南スーダンのことを本当に心にかけくださっていると確信した貴重な体験でした。

しかし、11月から早くも乾季が始まり、現在は食糧難に陥っています。雨季の間は仕事のない村人に畑仕事をしていただき、食料配布をすることができましたが、これからは別の方法を考える必要があります。

南スーダンでは、皆様からの支援なしには何もできないのが現状です。しかし、皆様のご支援をただ食料支援としてだけでなく、村の人たちが自立していく土台を築くことができるような支援となるように、彼らと共に方法を模索していきたいと思っています。

(イエスのカリタス修道会女宣教師 シスター下崎優子)

ボリビア・モンテロ サンホセ教会 「子ども食堂」



子ども食堂で昼食を食べる子どもたち

ボリビアは、国民の約7割が貧困層で、100人の子どものうち20人が栄養失調に陥っています。私は、ボリビアに派遣され40年になりますが、昨年からはサンタクルス県を中心部から50km北にある、モンテロ市のサンホセ教会で働いています。

DBKからの支援金により、ボリビアのサレジオ修道会は、貧しい地域の子どものために授業料無償の学校を建設するプロジェクトを展開していますが、このサンホセ教会での「子ども食堂」にも力を入れています。

この「子ども食堂」では、日本から派遣されたJICA（国際協力機構）のボランティアと一緒にプロジェクトを推進しています。JICAが教会と一緒にプロジェクトを展開することは珍しいケースで、それほどこの取り組みが重要であり、教会が信頼されている証しです。

この「子ども食堂」では100人の子どもたちに、10人のボランティアが昼食と軽食を提供しています。ボリビアの学校は午前と午後の2部交代制になっていますので、午前の授業を終えた子どもたちが教会に立ち寄り昼食を食べ、午後から授業がある子どもたちは、教会に来て昼食をとってから学校に行きます。

子どもたちにとって栄養バランスの取れた食事はこれだけなので、子どもたちは本当に喜んでます。親世代の多くは貧しい地域で学校がなかったため、教育を受けていません。ここでは、母親たちへの食育、料理教室、病気の説明もしています。私たちの活動は「大海の一滴」にすぎませんが、この一滴が大海になるのです。私も貧しさの中で、喜んで働いています。

(サレジオ会宣教師 倉橋輝信神父)

東ティモール ロスパロス児童養護施設



東ティモール国の最も東部に位置するラウテム県ロスパロス地区では、院長のトマス・グスマオ神父様を初めとする7人のサレジオ会員たちが準修練院(20数人の志願者も在籍)、児童養護施設と教区教会の運営のために働いています。

中でも、1959年にサレジオ会宣教師によって設立された児童養護施設の歴史は古く、開設から現在まで、常時、100人弱の子どもたちを受け入れています。

この施設で暮らす子どもたちの多くは、中学卒業後、施設を卒業し、主に農業で生計を立てることになります。このため、サレジオ会員と志願者たちは、勉学以外にも畑作業や家畜の飼育など、生活に必要な様々な技量を子どもたちに教えています。

現在の建屋は、1990年アメリカ合衆国国際開発庁の援助で建設されましたが、28年の経年劣化のため建屋の天井やドアなどが傷み、修繕が必要でした。修道院と児童養護施設に水を送る重要な役割を担う給水塔も老朽化のため危険な状態でした。

今回、皆様の温かいご支援で、同養護施設の修繕工事を実施しました。とりわけ、子どもたちの寝室は雨漏りがひどく、割れた窓から入る隙間風と疫病をも



たらす蚊に悩まされていましたが、もうその心配もありません。

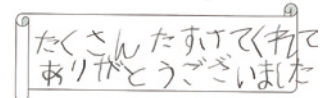
子どもたち、そして彼らと寝食を共にする会員に代わり、心より御礼申し上げます。

(サレジアニ・コオペラトリー 辻村直)

大分県津久見市 カトリック津久見幼稚園



この度は2017年9月の台風18号による被害におけるご支援をいただき、誠にありがとうございました。大変な時に訪問もしてくださり、勇気づけられました。また深川ブラザーも派遣してくださって、本当に助かりました。津久見教会の信者さんや幼稚園の先生方も励まされました。



カトリック津久見幼稚園の皆さんからの御礼状

災害から2か月ほどたって、被害は収束の方向に向かっていますが、津久見市は広い範囲で被災したため、まだまだ復旧していないところも数多くあり、また現実的な問題を突きつけられている方々も多くおられます。教会もそういった方々のために手を差し伸べていく必要があると思います。これからもご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

(カトリック津久見教会 高橋和希神父、
カトリック津久見幼稚園 職員一同)

DBKだより 第20号

2018年3月31日

発行人 山野内倫昭

発行所 ドン・ボスコ基金

〒160-0011 東京都新宿区若葉1-22-12
サレジオ会日本管区本部内
Tel:03-3353-8355 Fax:03-3353-7190
Email: dbkinfo@salesians.jp
http://salesians.jp/about/dbk



DBK[ドン・ボスコ基金]は、特に助けが必要な青少年の保護育成を支援する、サレジオの基金です。

サレジオ会の創立者ドン・ボスコの精神を受け継ぎ、貧困・家庭問題・災害等により、特に助けを必要とする青少年を保護育成する国内外のプロジェクトを支援しています。



DBKウェブサイト
「DBKだより」
バックナンバーも
ご覧いただけます

ご寄付くださる方は以下にお振り込みください。

郵便振替 口座番号 00190-5-292253

加入者名 ドン・ボスコ基金

寄付者氏名の非公表をご希望の方は、
払込用紙に「匿名希望」(☑チェックマーク)をご記入ください。



DBKスタッフは月に一度、恩人の皆様とご家族のため、また助けを必要とする方々のために、ミサを捧げます。